

## 美術の窓(99)

特別展「鏡像の美」を終えて  
一国際交流から得たもの

大和文華館館長 水田 徹

本年度の特別展「鏡像の美 一鏡に刻まれた仏の世界一」を終え、ほっと一息ついているところです。「鏡像の美」は青銅鏡の表面に仏や神のお姿を刻んだもので、その神秘的な美しさは、工芸史、考古学専攻者の間では注目されてきたものの、一般的には比較的なじみの薄いものです。加えて鏡面の控え目な寸法、線刻の細かさ故に、果たしてその美しさを入館者の皆様によくご覧いただけるか、心配しておりました。しかしご熱心な入館者の皆様から「貴重な作品をよくぞここまで数揃えられた」「鏡像という美術ジャンルの存在と美しさを初めて知りました」等々、お褒めの言葉を頂きました。

また専門家の方々からは、中野政樹氏の「鏡像と懸仏」(東京国立博物館特別展観1973年)以来四半世紀ぶりの展観、中国・韓国も視野に入れた初めての企画、などと評価を頂き、担当者はもとより館員一同喜んでおりました。

今回の特別展で今一つ嬉しかったのは、大韓民国国立中央博物館が所蔵する韓半島出土の鏡像を拝借し、展示に国際的な幅を持たせることができたことです。

そもそも今回の特別展は日本の鏡像の意味と美しさをご紹介しますと同時に、日本の鏡像を日本だけでなく東アジアの広がりの中で捉え、中国、韓国、日本三国出土の鏡像における相互関係の有無あるい



講演する郭東錫・韓国清州博物館館長

はその度合いを見定めたいという思いがありました。

そこで日本で紹介されることのほとんど無かった中国あるいは韓国のオリジナル作品を日本作品と直に並べて展示すること、それが私どもの夢でした。幸い韓国国立中央博物館が私どもの意図を深く理解され、英断をもって6点もの所蔵品を一括してお貸し下さいました。展示室入り口の独立ケースと展示室右壁前半に並んだ韓国鏡像が本特別展に文字通り深みと幅を与えてくれたことはご覧いただいた通りであります。ここに本誌上を借りて大韓民国国立中央博物館と金紅男館長に改めて心より感謝申し上げます。

展示品だけでなく、人的交流もこれを機に一気に深まりました。作品の搬入、搬出時に付き添って来日された学芸員の方々、開催趣旨に合わせて記念講演をお願いした韓国、中国、日本三国の先生方、そしてその先生方を慕って参集下さった多数の美術館員あるいは研究者の方々。それらの方々をも交えた会話、作品を目の前にしての意見交換、その間に熟成される友情と芸術理解の深化、そしてなによりも互いに美術研究者と



講演する王牧・中国浙江省文物鑑定センター助教授(写真提供:読売新聞社)

しての仲間意識が芽生えた一瞬に醸される充足感。無論こうした喜びは国内の美術館員同士のお付き合いでも日々経験致しますが、海を隔てた人々との共感体験は喜びも一入なのです。国境を越えた友情と仲間意識の醸成、それが今回の特別展における国際交流の何よりも成果だったと私どもは感じております。

講師の郭、王、両先生と夫々講演会後に夕食をともにした際、相互理解はピークに達し、最後にこう確認し合いました。我々美術館員にとって国際交流は、作品の貸借交渉まずありきではなく、芸術理解を深めるべく互いに勉強し合うこと、そしてより良い展覧会の開催を互いに模索し、企画を紹介し合うこと、出陳の可否はその過程で結果的に熟成されるべきものである、ということでもあります。

海外美術館の所蔵品を公式に拝借し、展示するのは、大和文華館としては初めての経験でした。それが成功裏に終わったのも、一重に皆様方のご理解とご支援のおかげです。本当に有り難うございました。今後とも国際交流にも一層努め、より良い展覧会の企画・開催をめざして参りたいと存じます。

案内パンフレット  
日本語版案内パンフレット  
韓国語版案内パンフレット  
中国語版

季刊 美のたより No.157

平成19年1月5日

発行 大和文華館